

- ◆実施校名 富田林市立大伴小学校, 富田林市立伏山台小学校, 松原市立河合小学校, 羽曳野市立埴生南小学校, 八尾市立安中小学校
- ◆主題名 感謝の気持ちを伝える **道徳の内容 B-感謝**
- ◆ねらい 電車の中の出来事から、学校での事を振り返るみゆきの心の変化を考えるを通して周りの人の支えに気づき、進んで感謝の気持ちを伝えようとする意欲を育む。

◎ 中心的な発問

あやは電車にゆられながら、昨日のことについて、どんなことを考え続けたのでしょうか。

◆ 本時の展開

| | 学習活動 | 発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点及び評価 |
|----|--|---|--|
| 導入 | ◎資料名を知り、言わなかったことで後悔した経験を思い起こす。 | <p>今日は「言い忘れた言葉」というお話です。言えばよかったのに言わずに後悔した経験はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しくしてもらったのに、その一言がいえなかった。 ・困っている子がいたのに素通りしてしまった。 | ○題名からイメージを膨らませ、自身の経験から考えさせる。 |
| 展開 | <p>◎資料を読み、あやの心情を考える。</p> <p>◎みゆきに声をかけられたときのあやの気持ちを考える。</p> <p>◎親切にしたつもりなのに相手に無視されたあやの気持ちを考える。</p> <p>・昨日の自分の行動を振り返ったあやの気持ちの変化に気付く。</p> | <p>みゆきに声をかけられたあやは、「あ、そうなん」と答えて、どんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小屋そうじ急がないと。 ・塾に行くの遅れる。 <p>だまったまま、心の中でムツとしたあやは、どんなことを思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・席を譲ったのにありがとうぐらい言ってよ。 ・せっかく親切にしてあげたのに、気悪いな。 <p>あやは電車にゆられながら、昨日のことについて、どんなことを考え続けたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう言えば、私もみゆきに伝えてなかった。 ・みゆきも今の私と同じ気持ちやったのかな。 ・みゆき、怒ってるかな。 | <p>○教師が範読する。</p> <p>○時間を気にする余り、周りのことが目に入っていない状態のあやの気持ちをとらえさせる。</p> <p>○あやの行動は見返りを求めてしたのではなく、ただ相手を思いやっただけであり、その時の相手のふるまいで関係が悪化することがあることにも気付かせる。</p> <p>○電車の中で不快を感じたのと同じ思いを、昨日自分がみゆきにしていたことに気付いた、あやの心情を考えさせる。</p> <p>評価：あやの気持ちの変化に気付くことができたか (発言やうなずき)</p> |

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p style="text-align: center;">展 開</p> | <p>◎月曜日、校門で出会ったみゆきに元気に声をかけたあやの気持ちを考える。</p> <p>◎感想や考えたことをワークシートに書く。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ゴミ捨て言ってくれてありがとう。」とみゆきに声かけたあやは、どんなことを思ったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・この間は、親切にしてくれたのに無視してごめんね。 ・親切にしたのに、無視される子の気持ちがわかったよ。 | <p>○電車の中での出来事から、自分のみゆきにとった行動を思い起こし「ありがとう」の言葉につながっていることに気付かせる。</p> |
| <p style="text-align: center;">終 末</p> | <p>◎感想や考えたことをワークシートに書く。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ありがとう」の気持ちを伝えることについて、考えたことを書きましょう。</p> </div> | <p>○全体で交流することで、様々な考えがあることに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価：感謝の気持ちを積極的に伝えていこう という意欲の表れが見られたか (ワークシート・発言)</p> </div> |

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

(それぞれの成果と課題)

- ・自分も同じような経験をしたことがある児童が多かったので、主人公の気持ちに寄り添って考えられた。体験をもとに話が広がった。(今後に活かしていきたい気持ちになった子が増えた。)
- ・「ありがとう」を伝えるべき場面に気づき、声をかけ合うことが増えてきた。
- ・思いやりの大切さを再認識できた。
- ・生活経験との結びつけをいかに図るか。
- ・授業中の評価は難しく、最後での評価に偏ってしまう。

(チームとしての成果や改善策)

- ・内容を自分の体験としてとらえていけるかが、深まりにつながる。
- ・ふだんの生活の中で実践していく力につながられるかが大切。

⇒子どもの思考にそったワークシートの作成・活用。

- ・1つの資料で、子どもたちの成長をみとるのは難しい。
- ・本時での変容か、その子自身がもっている本質的なものかの判断が難しい。

⇒長期的にみとることが大切。

- ・「ありがとうの木」「友だちピラミッド」などの実践につなげ、意識できる機会を増やす。
- ・「ありがとう」を言いたいことや言ったときの気持ちを積み重ねて可視化。
- ・感想の掲示など、他の子の考えに触れる機会をつくり、自分の考えを深める。

○道徳の評価についての提言

- 課題 ・教師がねらいとしている答えの子はいたが、それが成長かどうかはわからない。
- ・本時で変容したものなのか、もともと児童が持っていたものなのかが分らない。
- ・変容が分りにくかった。

→ 一つの教材で成長を評価することは、難しい。

- ・授業中に児童の様子や発言内容などから、評価するのは難しい。
- ・発言はしないが、自分なりによく考えている児童もいる。

→ ワークシートなどを利用し、記録を残していくことが大切ではないか。

- 評価 短期的な評価（授業での評価）

- ・話の内容にきちっと入っている
- ・自分の体験と合わせて考えている。
- ・具体的に実践しようとしている。

長期的な評価（道徳ファイルでの評価）

- ・資料と自分が考えたことを一緒に1年間集め、変容をみる。
- ・自分の考えたことをどのように実践するか考えている。
- ・児童自身が、自分の変容を評価する。
- ・掲示したり、学級通信に載せたりすることで、児童がお互いに評価し合う。

- 提言 ・学年で統一の教材を作ることで、評価の基準を一定にする。
- ・ワークシートを学年で共有し、どの教師でも同じように評価できるようにする。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実態（評価した子どもの姿やそれをもとに行った支援）

1、あやの気持ちになって、発言している子。

- ・あやの立場を十分に理解していない児童については、文章をもう一度確認し、心情に迫れるようにした。
- ・あやを中心に考えたが、ぶれることがあったので、「ここはあやについて考えよう」と助言した。
- ・あやになりきって、発言している子もいた。なりきって話している友だちの発言から、自分も考えられるようになった子もいた。

2、自分だったら、という視点で考えている子。

- ・「あやと違って」や「あやと同じように」など、あやと自分を比較して発言していることを評価した。
- ・自分だったらこうしたという経験をもとに話している子を評価した。
- ・友だちの話を聞いて、自分も似たような体験をしたことや感じたことなどを発表している子を評価した。

3、最後の感想で、自分とあやの心情に迫っている子。

- ・授業中はあまり発言しなかったが、最後の感想を見ると、あやと自分を重ねて書いていたり、自分も同じような経験があったので、気をつけないといけないなど自分の普段の生活に戻って考えていたりする子も多くいた。そのような子は、友だちの話をしっかり聞きながら自分なりの考えを深めているように感じた。考えることに時間はかかるが、しっかり考えようとする姿勢を大事にしていきたい。

○成果と課題

（成果）

- ・「伝えることが大切」「分かってくれるだろうではなく、ちゃんと言う」という感想から、「ありがとうの木」に発展していった。友だちにしてもらった嬉しい行動や言葉をカードに書き、木に貼っていく。その木を見ることで、自分も「こんな時にありがとうと言わないとあかんと気がついた」「ありがとうと伝えてもらおううれしい」「うっかりお礼を言い忘れても、ありがとうを言えてうれしかった」などの感想が寄せられた。日常的に自分や友だちの言動を考えるよい機会になった。

（課題）

- ・授業中だけで、子どもの変化を感じ、評価することは大変難しいと感じた。ただ、長い目で継続的に取り組むことで、少しずつでも子どもたちの中に入って行くのではないかと考えている。
- ・結果として、最後の感想で評価することが多いが、十分に見えていない事も多いと反省している。

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○授業の展開について

- ・チームで作成した指導案では、導入部分で、「言い忘れた言葉」という題名から今までの経験を子どもたちに聞くという形になっていたが、自分のクラスでは少し難しいように感じた。そこで、資料の中で、主人公が電車に乗る場面が出てくるので、電車に乗り、席をゆずった経験があるかどうかを聞く形に変更したところ、席を譲った際に、相手はどんな様子だったかを合わせて聞くことで、主人公が電車の中で体験した出来事について、主人公の気持ちに自分の思いを重ねて考えることができてよかった。
- ・役割演技を入れたことで、子どもたちが、主人公の気持ちになりきることができたようだった。場面状況がよく理解できたことも合わせてよかったと思う。

○子どもたちの様子について

- ・資料が分かりやすく、読みやすかったようだ。
- ・「ありがとう」を伝えたいと、最後のふり返りで記述していた子たちが多かった。
- ・自分の経験と重ねてふり返っている子もいれば、主人公の気持ちに触れただけで、終わってしまった子どもたちもいた。

○評価について

①主人公の気持ちに寄りそうことができているか。

②感謝の気持ちを積極的に伝えようとする意欲が見られたか。

この2点で、評価を行なったが、この時間だけでは、評価をすることが難しいと感じた。子どもたちがこの授業で考えたことが、行動に結びついていくのかどうかは、これからの子どもたちの様子を見ていくことが大切だと考えた。

○成果と課題

- ・授業中の様子だけで評価をすることは、難しい。
- ・最後のふり返りの感想で評価をすることが多くなるのではないか。
- ・担任の主観で、評価してしまってもいいのかどうか。⇒担任以外の目で見ること大切である。

◆実施学年（5年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

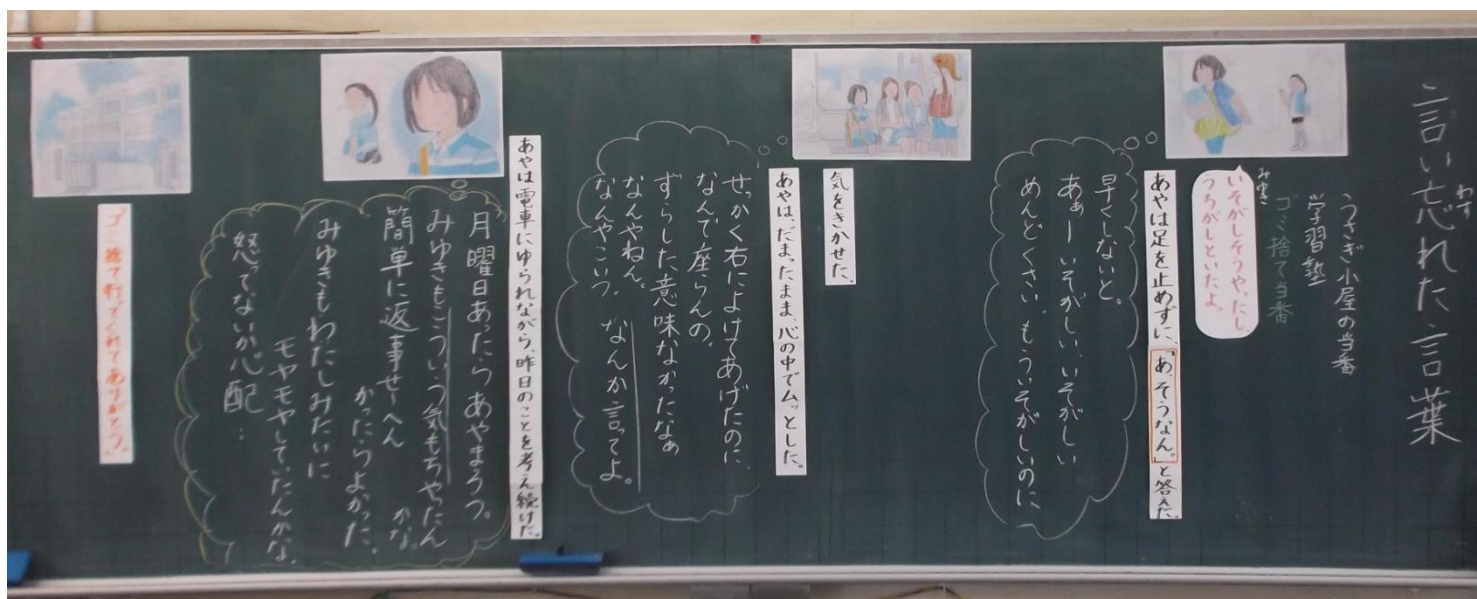
○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・導入で「言い忘れた言葉」の経験を少し深めに聞いたことで、けんかして「ごめん」と言えずもやもやしたこと、「ありがとう」と伝え忘れていることなどが出てきて、資料に入りやすかった。また、展開部分でも同じような経験で重ねることができたり、終末部分でも経験を重ねて感想を書くことができた。
- ・展開2つめの発問の際、女の人にどのような対応をしてほしかったかを追発問したことで、主発問でのみゆきの気持ちにも寄り添いながら考えることができた。
- ・資料を二つに分けて提示したことで、みゆきのことを心配に思う気持ちが強く出てきたように思う。また、自分だったらどんなことを言うかなど追発問をしながら時間をかけてあやの気持ちを考えた。
- ・後半の資料を読んだ際、主発問で考えたあやの心情を自分と重ねることができた。
- ・「あ、そうなん」と「ありがとう」の違いや、「ありがとう」と伝え忘れた時の両者の心のもやもや、自らの経験談などを振り返りで交流することで、深まりが出たように思う。

○成果と課題

- 経験を重ねやすい資料だと思う。
- 資料を二つに分けて提示し、深まりがあった。
- △時間配分のむずかしさ
- △子どもの発言を引き出す。

◆参考資料（板書）



実践校名（松原市立河合小学校）

◆実施学年（5年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

評価が自分自身にも、他の児童たちにも分かりやすく、指導者自身にも十分に分かりやすい工夫として（その時間内で）心情メーターの使用、板書の工夫、めいめいの名札を黒板に掲示することで児童の現在の気持ちを分かるようにした。心情メーターはクラス人数分用意し、使い方をあらかじめ説明しておいて、本時に使用させた。

個々の心情はその時点では一様でなく、他児の意見を聞くことで、意見に変化の見られる児童も出てきた。終末の交流でも意見の幅が広がり、他人の意見にも耳を傾ける児童も現れた。交流の中で児童個々人のまとめファイルを作成させ、1年間保管していくようにしていきたい。

今回は、入り込み授業だったので、授業がどの程度以後の学校生活に反映したかは定かではないが、必ずや児童の今後に関与されていくものと信じている。

ただ、児童はほめられたいから、認められたいからというような思いから、本意ではない行動を取ることもあるから、長い目で児童の行動を見守る必要があるように思われる。

○成果と課題

時間内に用いたワークシートや、名札、心情メーターの使用により児童の意見の幅が広がったことは成果と考えられる。今回新たな試みとして、児童には新鮮に映り、意見も多く出て良かったが、今後、道徳の時間に常態化していけるよう、さらなる用具の工夫が必要である。あとは、指導者の、児童の実態をそのつど記録しておくための記録ファイル的なものを、いかに素早く簡潔にまとめていくかが鍵のように思われる。

◆実施学年（ 5年 ）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

1 中心発問についての記述やようすから

- ・発言する子に偏りが出ないように、全員に記述させた。事前に記述をさせることで、普段はなかなか発言できない児童も発表しやすくなったように感じた。
- ・昨日何があったか、を確認してから記述させることで、気持ちをよりとらえやすくなったように感じた。
- ・お礼を言ってなかった自分自身の行動を省みる記述と、みゆきに対する思いの両方の観点からとらえられていた。
- ・実際に、あやになりきって自分自身の言葉で記述できている児童が多かった。話し言葉だと、より気持ちに寄り添いやすいように感じた。

2 ふり返りの記述から

- ・ほとんどの児童から「ありがとうの言葉は大切」「きちんと伝える」という記述が見られた。
- ・自分の今までの経験をふり返っていた児童が8人。「やってもらっていたのに無視をしてしまっていた」「ものを拾ってもらったのに言えなかったことがある」などの経験をふまえて、これからの行動につなげようとする記述も見られた。
- ・「言ってもらったら気持ちがいい」という相手の受け止めだけでなく、「自分もいい気持ちになる」と伝える側の気持ちもとらえられている児童もいた。

3 授業全体をふり返って

- ・導入の発問が児童にはピンとこなかったようで、「言わずに後悔した経験」へのひきつけが不十分だった。他のクラスでも、誕生日のプレゼントのリクエストやケンカしたときの一言などが挙げだったので、より自分自身のこととして考えられるような導入の工夫が必要と感じた。
- ・中心発問までに時間がかかり、ふり返りの交流ができなかった。
- ・最後の場面でのあやとみゆきのやり取りでのおさえが不十分だったのか、みゆきの「えっ、何が。」という言葉の意味をとらえられていない児童もいた。みゆきの行動は、あやに「ありがとう」を言ってもらうための意図的なものではないことにも触れておくべきだった。

○成果と課題

（成果）

- ・「これからは言うようにする」「伝えることが大切」という記述を受けて、「ありがとう」を伝えるべき場面に気づき、声をかけ合うことが増えてきた。

（例）教師に対して…連絡帳のチェック、漢字の丸つけ、給食のおかわりなど

児童同士で…プリントを後ろの児童に回す、ノートなどを配ってもらうなど

（課題）

- ・中心発問がいかに重要であるか。中心発問で気持ちの変化をきちんととらえることができれば、児童に「考えさせたいこと」や「気づかせたいこと」はとらえやすくなるように感じた。
- ・児童の生活経験との結び付けをいかに図るか。
- ・「ありがとう」と言うことが根付いている学級での実践。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

① あやの気持ちの変化に気づくことができたか。

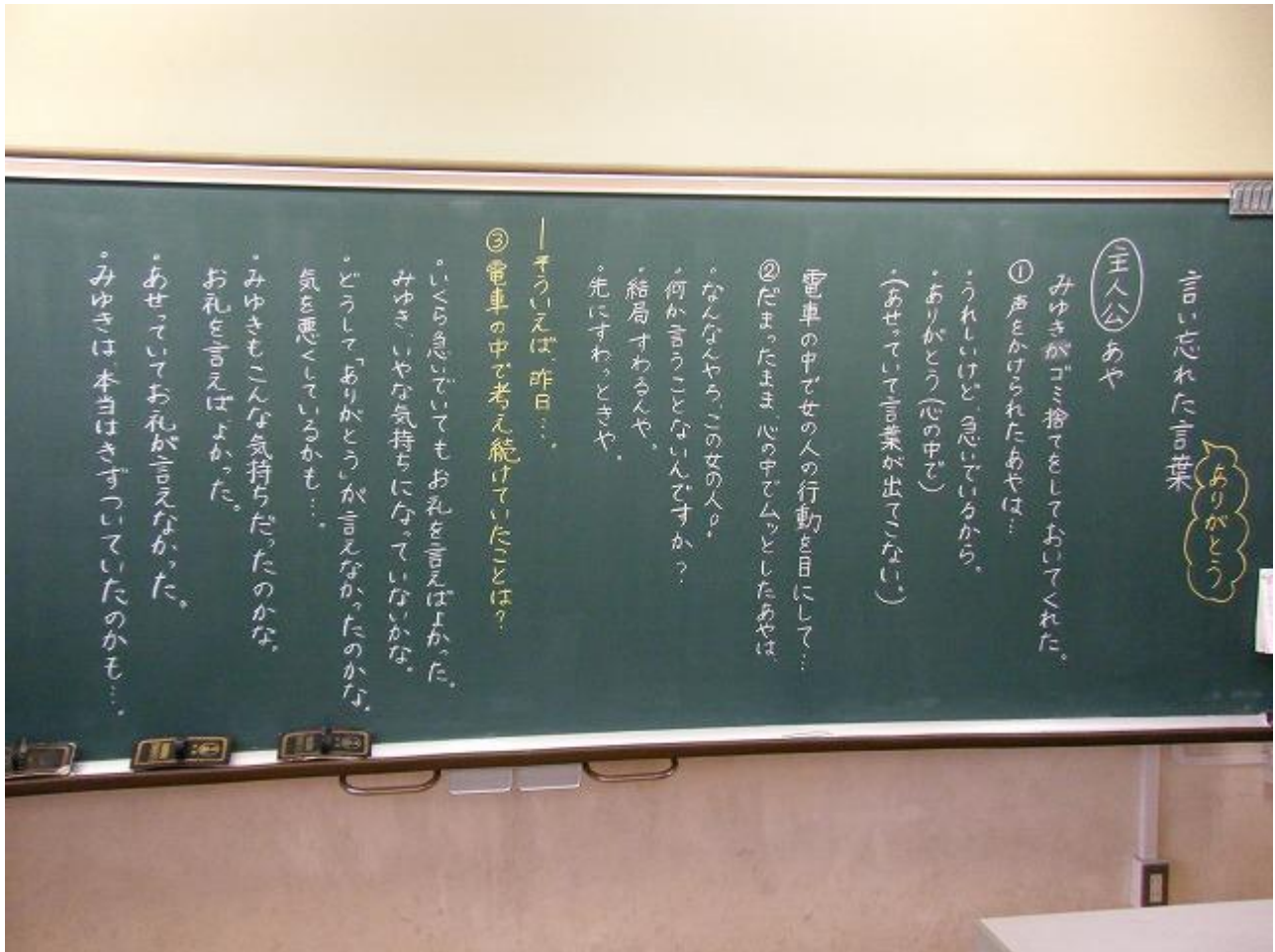
- ・昨日、わたしはこの女の人と同じ態度をみゆきにとってしまっていたんだ。みゆきもムツとしたやろうな。ごめん…。
- ・そういえば、昨日みゆきがゴミ捨てしといてくれたけど、うち、お礼ゆうてなかった…？
昨日、みゆきにテキトーな返事しちゃった！？うちって最悪やわ…。
- ・あん時のみゆきの気持ちもこんなやったんかな。次会ったらあやまっところ。
ついでに、ありがとうもゆっところ。
- ・みゆきがゴミを捨ててくれたのに、お礼言っていないな。女の人人の行動を見てムツとしたけど、みゆきにも私、ムツとさせたのかな？
- ・ハッ、昨日のみゆきも私と同じ気持ちやったんかな？昨日、私も同じことしてんや！
みゆきにもあやまっところかな。ゴミ捨て当番もみゆきじゃないのに行ってくれたんや…。
お礼も言えてないし…。

② 感謝の気持ちを積極的に伝えていこうという意欲の表れが見られたか。

- ・母はいつも「お茶入れといたよー」と言っているのを、ぼくは無視していました。ぼくは、この授業で「ありがとう」の大切さを知ったので、今度からは「ありがとう」と言うようにします。
- ・「ありがとう」は、すごくいい言葉だなと思いました。私は、いつも人に何かしてもらったりしたとき、「ありがとう」と言います。そして、それを言うことで、何だかすごくいい気持ちになるので、これからも「あいがとう」ときちんと言うようにします。それから、「ありがとう」とみんなに言われるような、やさしい人になりたいです。
- ・ありがとうを言わなかったら、もやもやしたりするけど、その時に言っといたほうがいいなと思いました。あやといっしょで、友だちに「やっといたで」とか言われたときに、急いでいて言えなかったりしたことがあります。あとからすごく後かいします。お礼の言葉はとても大切だなとあらためて思いました。
- ・私は、急いでいてもちゃんと「ありがとう」を言いたいと思いました。この勉強をして、あせったりしていても、とまって「ありがとう」とちゃんと言ったら、相手もうれしい気持ちになるから、これから言いたいと思います。
- ・私もこんなことがありました。たぶん、あやのやった行動をしたかもしれません。あやは、最後にお礼を言ってすっきりしたと思います。こんなことがあったら、お礼を言うようにします。
- ・やったことにちゃんと「ありがとう」を言えとは言わないけれど、「ありがとう」を言われると「自分がやったことは良かったんや」と思えるし、これからもやってあげたいと思う気持ちがふえると思う。
- ・言い忘れることはあるけど、言いたいことは言おうと思いました。

◆参考資料

・板書写真



実践校名 (八尾市立安中小学校)